

先日の『クリスマス保護者会』は、2年続けてのコロナ禍の中での開催となりましたが、皆様にお集まり頂きましたこと改めて感謝申し上げます。人数や内容の関係から 今回も乳児・幼児で 午前・午後に分けて行いました。兄弟関係により 両方 参加頂いた方々には度々のご足労となってしまうかもしれませんが 温かなご理解とご協力を 重ねてお礼申し上げます。

さて、会の中でも お話ししましたように、本園は よく『つのぶえらしい』と言われます。それはきっと これまでの歩みの中で培われてきた“精神”を指しているのだと思いますが、どんな時も “子ども達を第一に” “人として” “共に分かち合って” という 本園の理念や保育方針を、各ご家庭の皆様が 常に理解してくださり 信じてくださり 協力してくださる その温かな礎の上に 今も尚、築かれ 守られ続けている “伝統” であると感謝しています。そしてそこには、役員の方々を中心とした クラスや年齢等を越えた 保護者の皆様同士の交流や分かち合いによって繋がれた心の絆が大きな力となっていることを確信しています。けれども この2年は、特に新しく仲間入りされた方々にとっては、「つのぶえらしさ」を直接 感じて頂ける保育の現場や 交流の時を 設けられなかったことが 何よりも残念です。中でも “プレイデー” “クリスマス” についての 敢えて銘打って開催している保護者会は これらの行事にこそ反映されている「つのぶえらしさ」を理解して頂くためのものであり、他園には まず見られない つのぶえ独自の子ども主体の自由保育を 子ども達それぞれの姿を通して 保護者の方々に楽しんで頂けるように 毎年必ず 行事の前に行って来ました。

今回は 例年のスタイルでのプログラムでの進行は叶わず、物足りなさを感じられた方も多くいらっしゃったことと思いますが、でも久しぶりにあのような形で 皆様にお会いでき 一人一人のお話を伺うことができたことは 私共にとりましても 嬉しく感謝でした。いつかまた 皆様と一緒に クリスマスのほんとうの意味を心に留めながら、2000年も前に起こった出来事に想いを馳せ、クリスマスの飾りの製作や 子ども達お手製のお料理を 温かな笑顔と共に味わえる時が再び戻ることを信じ 祈り続けていきたいと思っています。

今年もクリスマスを待ち望む 備えの4週間 “Advent Week(待降節)” が始まりました。21日・23日・25日に それぞれ各クラスのクリスマス礼拝を 保護者の皆様と一緒に 行いますが、例年通り 年長組のPageant(聖誕劇)を通して 2021年前の出来事を 伝えます。ろうそくから ろうそくへ 炎をつないでいく「キャンドル・サービス」では クリスマスの讃美歌の中で 温かな炎を分かち合い 見つめ 心静かなひと時を過ごします。ご自身のすべてを 人のために尽くされ惜しみなく費やされたイエス・キリストの生き方は 自らを削り その命が果てる最期の瞬間まで 周りを温かく明るく照らし続けるキャンドル そのものです。ささやかなひと時ですが クリスマスの愛を 皆様と分かち合えますように イエス・キリストの愛と平和の光がすべての人の心に満たされますように お祈り致します。

「すべての人を照らす そのまことの光が 世に来ようとしていた。(ヨハネ 1:9)」

「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。

ひとりの男の子が、私たちに与えられる。(イザヤ9:6)」(石田 記)